

「対照言語学」プロジェクト第1回合同研究発表会
2017年2月19日、国立国語研究所

日本語の名詞修飾節構文—機能論的分析を目指して—

益岡隆志（関西外国語大学）

要旨

本発表では、日本語の非限定的名詞修飾節（「情報付加型名詞修飾節」）を対象に、その情報付加の機能をめぐって考察する。その考察において、情報付加の関与する領域が文である場合と談話・テキストである場合に分けたうえで、それぞれの情報付加の具体的なあり方を検討する。併せて、情報付加型名詞修飾節の主名詞が文の領域、談話・テキストの領域においてそれぞれ主として文の主題、談話・テキストの主題（または関連主題）として機能する点にも言及する。

1 はじめに

動詞研究と名詞研究

名詞にかかわる研究課題

名詞（名詞句）の指示、名詞述語、名詞句の構成、名詞の文法的類別、など

名詞修飾節（「修飾部＋主名詞」）の内部と外部

◇内部：修飾部と主名詞の関係

代表的な研究課題：「内の関係」vs.「外の関係」

寺村（1975～1978、1980）

(1) a サンマを焼く男

b サンマを焼く匂い

内・外の関係における関係的意味の分析

Matsumoto (1997)・松本 (2014)、加藤 (2003)、堀江&パルデシ (2009)、
益岡 (2010)、Comrie (2010)

◇外部：名詞修飾節とそれが出現する外部環境の関係

代表的な研究課題：非限定的名詞修飾節

寺村 (1983) cf. 金水 (1986)、井上 (2009)、三宅 (2011)

情報付加（「当の特定の対象についてのある情報を付け加える」）

- (2) 誰からもほんとうに愛されていないという信念を持たない健作は、わずかな記憶をたどって、やはり亡き母を慕っていた。

本発表では、名詞修飾節構文にかかわる問題として非限定的名詞修飾節（以下、「情報付加型名詞修飾節」）を取り上げる。

本発表の目標

情報付加型名詞修飾節における「情報付加」の機能を明らかにすること
併せて、情報付加型名詞修飾節の主名詞における主題性の問題を取り上げる

2 情報付加の関与領域と機能

内の関係の名詞修飾節における限定修飾型 vs. 情報付加型

- (3) しかし、証券マンのすすめる株を買っても必ずしもうまくゆくものではない。（北杜夫「マンボウ水族館」）
- (4) 最初は丁寧に答えていた麻知子も、次第に疲れてきた。（山村美紗「小野小町殺人事件」）

情報付加の機能（益岡（1995））

修飾部が主名詞についての情報を節の外に対して付加する

Q：修飾部が節の外に対してどのような情報を提示するか？

修飾部の情報提示が関与する領域

文の内 vs. 外

- ・文の領域

文内の主節に対する情報提示 cf. 寺村（1983）、金水（1986）

- ・テキスト（談話・テキスト）の領域

テキスト（談話・テキスト）に対する情報提示

以下の観察の留意点：名詞修飾節の文内位置

主な文内位置

述語の位置

補足語の位置

主題・状況語の位置

名詞修飾の位置（本発表では対象外）

3 文の領域における情報付加の機能

文内の主節に対する情報提示

修飾部と主節の関係性

⇒主名詞は修飾部と主節を繋ぐ支点

【述語の位置】(名詞述語文)

- (5) 東京から移ってきてまもない直良であったが、やはり東京での貝塚の発掘の味は忘れられなかった。(春成秀爾「明石原人」とは何であったか)
- (6) 欧米に四年余り住み、そのほとんどの国に行ったことのある私だが、スリ、置引、強盗などの犯罪に出会ったことは一度もない。(藤原正彦「グローバル化の憂愁」)
- (7) いかにも仮説を立てて論を進めることに味をしめたアインシュタインとはいえ、あくまでも科学者である。(「アインシュタイン・ロマン」)
- (8) 言葉の精髓を凝縮したといわれる詩歌だけに、西洋語への翻訳は困難を極め、... その真価は、別の言語ではなかなか伝わらないと思わざるをえない。(川村湊「村上春樹はノーベル賞をとれるのか?」)

【補足語の位置】

- (9) お忙しいあなたにこんなことをお願いするのは申しわけないんですが... (寺村 (1980))
- (10) 尾道では、半年も、時には一年も待たなければならない、ハリウッドやヨーロッパ製の新作映画が、すぐにでも見られる。(大林宣彦「ぼくの青春映画物語」)
- (11) 徹吉はなにがなし自分と縁があるような気がするこのヒットラーに、関心と親しみの念を抱いた。(北杜夫「楡家の人々」)

【主題・状況語の位置】

- (12) はじめは、そんなことして家族を飢死させたらどうなるのといって受けつけなかった母も、東京支社へ転勤という話を聞いて、やっと承知してくれた。(庄野潤三「文学交友録」)
- (13) 近年には、村上春樹の受賞が有力との情報を得たある新聞記者は、本人へのインタビューをとるために、その時に彼が滞在していたハワイ行きの飛行機を予約し、受賞情報が入ったらすぐに飛び立とうとスタンバイしていたが、受賞ならずの報告が入り、チケットをドタキャンしたという。(川村湊「村上春樹はノーベル賞をとれるのか?」)

- (14) 女性教官こそ双手を挙げて賛成してくれると思っていた私は、呆気にとられ、虚脱して、声も出なかった。(藤原正彦「グローバル化の憂愁」)
- (15) 女の子の範疇からかなりはみ出していた私のためにも、もう少し広やかで静かな住居を親たちは願い出していた。(寿岳章子「京都 まちなかの暮らし」)

4 テクストの領域における情報付加の機能

主名詞をテキストに導入するに際しての、その主名詞についての関連情報の提示
⇒主名詞はテキストの展開の軸 (cf. 砂川 (2005))

【述語の位置】(名詞述語文)

基本構文の「NハNダ」構文&有標構文の「Nダ」構文

◇「NハNダ」構文

- (16) 私、東京から来ました中川亜矢子と申します。(山村美紗「愛の飛鳥路殺人事件」)
- (17) さきほど予約の電話をした荒木です。(三浦しをん「舟を編む」)
- (18) 日本館のなかに一人、友だちを得た。コンセルバトワールに通っている作曲家の矢代秋雄氏である。(遠藤周作「帰国まで」)
- (19) 背後から呼ぶ声がした。振り返ると、炎天下の整列で最後に倒れた清水一平であった。(山崎豊子「二つの祖国」)

◇「Nダ」構文(単文構文)

- (20) 浜辺に泣き伏すお宮であった。(三上(1970):「陰題」)
(お宮は、浜辺に泣き伏すのであった)

語りのレトリックとして慣習化された構文

・テキストの冒頭

- (21) もう私にとっては自分の故郷のようになった長崎である。(遠藤周作「切支丹の里」)

・テキストの末尾

- (22) あなたの暮らし出版をやめてしまっても新しい小麦粉料理のことを考えてしまう花山でした。(NHK「とと姉ちゃん」2016年8月1日)

【補足語の位置】

- (23) 財政支出を増やすことで物価を上げるという理論で注目されている米プリンストン大のクリストファー・シムズ教授が1日、東京都内で講演した。(朝日新聞2017年2月2日)
- (24) 中京区の新京極商店街が主催する「京まちなか映画祭」が17日から始まる。(朝日新聞2016年9月14日)
- (25) トランプ大統領が1月31日、連邦最高裁判事に、保守的な立場で知られる連邦控訴裁判事のニール・ゴーサッチ氏(49)を指名した。(朝日新聞2017年2月2日)
- (26) 先日、スコットランドの大学にいる息子から電話があった。(藤原正彦「グローバル化の憂愁」)

【主題・状況語の位置】

- (27) 米コロラド州を訪問している阿部守一知事は22日、県短大(長野市)を四年制化して2018年に開学する長野県立大を巡り、... 企業家養成を県立大教育の柱に据える意向を表明した。(信濃毎日新聞2016年8月24日)
- (28) 紀元71年にローマ人によって建てられたこの都市は、中世には羊毛の取引で栄えた。(「地球の歩き方 ヨーロッパ」)
- (29) 長さ120mの本堂に千体もの千手観音をまつる三十三間堂は、正しくは蓮華王院と言い、すぐ北東に立つ天台宗の名刹・妙法院に属している。(「旅王国 京都」)
- (30) 神戸市が2018年春の民営化をめざして入札手続きを進める神戸空港について、関西空港と大阪(伊丹)空港の運営会社「関西エアポート」の陣営が運営権を得る見通しとなった。(朝日新聞2017年2月14日)

5 主名詞の主題性

主名詞の機能(上述)

- ・文の領域：修飾部と主節を繋ぐ支点
- ・テキストの領域：テキストの展開の軸

主名詞の主題性

◇節の内部：修飾部に対する主題性(益岡(準備中))

情報付加型名詞修飾節は主題構文の変種

多くの場合、主語を兼ねる

◇節の外部（本発表での考察対象）：節の外部に対する主題性

主名詞は修飾部によって情報付加を受けるに値する存在

・ 関与領域が文の場合

主名詞は文において鍵となる要素

⇒多くの場合、当該の文の主題（または主語）

・ 関与領域がテキストの場合

主名詞はテキストの展開において鍵となる要素

⇒多くの場合、当該のテキストの主題または関連主題（cf. 益岡（2004））

【関連主題】

(31) ボブ・ディランさん受賞に喜び

曲を通じ、米国が抱える社会問題に触れてきたディラン。30年来のファンで、米国史の授業でディランを取り上げることがある名古屋市立大准教授の平田雅己さん（47）は「米国の変化を彼なりの表現で伝え、心に響く歌詞をつくり続けた。米国の商業主義から外れて、アーティスト主義を貫いた部分が評価されたのでは」とみる。（中略）

「びっくりです」。神戸・元町で「Bar DYLAN」を営む山内貴彦さん（42）は受賞に驚きの声を上げた。高校生の時、ディランを追ったドキュメンタリー映画をテレビでみて、雷に打たれたような衝撃を受けた。一方で、こうも推測する。「本人は受賞を喜んでいないかも。『自分はミュージシャンであって、文学者ではない』と」（朝日新聞2016年10月14日）

*レトリックとして慣習化された「～N」構文

テキストへのNの導入という機能

(32) 宝塚音楽学校創立100年

時代を超えて1世紀—。華やかなレビューやミュージカルで知られる宝塚歌劇の劇団員を養成する宝塚音楽学校（宝塚市）の創立100周年記念式典が開かれた17日、会場の宝塚大劇場には、節目を祝う卒業生の元トップスターらの笑顔がはじけた。

OGたちは、カメラを手にした熱心なファンが待ち受ける「花のみち」を抜け、大劇場に続々と姿をみせた。同期生や旧友との再会を喜び、楽しげに語り合う姿があちこちにみられた。

元星組トップ安蘭けいさんは報道陣に囲まれ、「大劇場は時が止まっているようで、夢の世界だったんだと実感した」と懐かしんでいた。

同校の近くにあり、入学試験前は受験生がよく利用するというホテル若水（同市湯本町）の小早川優社長（48）は「当たり前のように宝塚の名が全国に通じるのは音楽学校と歌劇があつてこそ。よくぞ100年も続いてくれた」と祝福した。

約2万点の宝塚歌劇コレクションを持つ作家草場達也さん（50）＝神戸市中央区＝は「戦時中は、生徒も勤労働員に駆り出された。阪神・淡路大震災で苦労した生徒も多かったと聞く。それらを乗り越えての100周年。歌劇の屋台骨を支える音楽学校には、これからも末永く続いていってほしい」と感慨深げだった。（神戸新聞 2013・7・17）

6 おわりに

本発表の要点

情報付加型名詞修飾節の機能

文の内 vs. 外

- ・文の領域

文内の主節に対する情報提示

⇒主名詞は多くの場合、文の主題（または主語）

- ・テキスト（談話・テキスト）の領域

テキスト（談話・テキスト）に対する情報提示

⇒主名詞は多くの場合、テキストの主題または関連主題

検討課題

◇テキストタイプの問題（cf. 工藤（1995））

情報伝達のテキスト、語りのテキスト、など

◇対照研究

日本語研究からの課題の提供

内・外の関係における関係的意味の分析（松本（2014）など）

本発表：情報付加型名詞修飾節の機能

日本語は情報付加型名詞修飾節を多用

寺村（1983）、井上（2009）、堀江&パルデシ（2009）

益岡（準備中）：主題構文との関わり

【参考文献】

- 井上和子 (2009) 『生成文法と日本語研究—「文文法」と「談話」の接点』大修館書店.
- 加藤重広 (2003) 『日本語修飾構造の語用論的研究』ひつじ書房.
- 金水敏 (1986) 「連体修飾成分の機能」松村明教授古稀記念会編『松村明教授古稀記念国語研究論集』明治書院.
- 工藤真由美 (1995) 『アスペクト・テンス体系とテキスト—現代日本語の時間の表現』ひつじ書房.
- 砂川有里子 (2005) 『文法と談話の接点—日本語の談話における主題展開機能の研究』くろしお出版.
- 寺村秀夫 (1975-78) 「連体修飾のシンタクスと意味—その1～その4」『日本語日本文化』大阪外国語大学研究留学生別科.
- 寺村秀夫 (1980) 「名詞修飾部の比較」『日英比較講座第2巻：文法』大修館書店.
- 寺村秀夫 (1983) 「「付帯状況」表現の成立の条件」『日本語学』2巻10号.
- 堀江薫&プラシャント・パルデシ (2009) 『言語のタイポロジー』研究社.
- 益岡隆志 (1995) 「連体節の表現と主名詞の主題性」益岡隆志・野田尚史・沼田善子編『日本語の主題と取り立て』くろしお出版.
- 益岡隆志 (2004) 「日本語の主題—叙述の類型の観点から」益岡隆志編『主題の対照』くろしお出版.
- 益岡隆志 (2010) 「連体節構文における関係的意味」*KLS* 30、関西言語学会.
- 益岡隆志 (準備中) 「主題構文と名詞修飾節構文の接点」
- 松本善子 (2014) 「日本語の名詞修飾節構文」益岡隆志他編『日本語複文構文の研究』ひつじ書房.
- 三宅知宏 (2011) 『日本語研究のインターフェイス』くろしお出版.
- Comrie, Bernard (2010) “Japanese and the other languages of the world.” *NINJAL Project Review* 1.
- Matsumoto, Yoshiko (1997) *Noun-Modifying Constructions in Japanese*. Amsterdam: John Benjamins.